

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	7
サポートクラス	ルイネーター	Lv.1:	ルイネーター	性別	♀
称号クラス				年齢	27
種族	ヒューリン			境遇	天涯孤独
出自 (効果)	傭兵			目標	無目的

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	9	9	18	15	15	9
ボーナス	3	3	3	6	5	5	3
クラス修正	0	1	0	2	2	1	0
他修正							
能力値	3	4	3	8	7	6	3

HP	55
MP	82
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動	
右手	エレメントトーチ	至近	-2	9	0	0	0	0	0	
左手										
頭部	メイジハット					2				
胸部	ガードローブ					9	3	1	-1	
補助	マナカラーリング(闇)						1			
装身具	グリモア									
能力値				4	0	3	0	6	10	8
スキル										
その他										
総計(右)				2	9					
総計(左)						3	11	10	11	7
総計(両)										m
ダイス数				2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	7			7	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	7			7	+ 2 d
エネミー識別	8			8	+ 2 d
アイテム鑑定	8			8	+ 2 d
魔術判定	8			8	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	毒消し草
バックパック	毒消し草
MPP	
MPP	
MPP	
HMPP	
HPP	
HPP	
現在重量: 10	所持金: 1864
最大重量: 15	預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1								
マジシャンズマイト	2	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
コンセントレイション	1		P		自身			
効果: 魔術判定+1D								
ダークネスキャスター	1		P		自身			
効果: 闇属性Dmg+Slv*3								
ダークネスシュート	1	6	Mj	20m	単体	魔術		
効果: 闇属性 Dmg3d、相手のReact-1D								
エンブレイブド	5		P		自身			
効果: SL*3+1 EP獲得								
クリエイティブオプション	3		Set		自身	自動		
効果: Ep1消費 攻撃+SL*4								
マジックブラスト	2	3	Mov		自身	自動		
効果: 対象を範囲(Slv*2)に変更								
リゼントメント	1		Matk時		自身		シナリオ1	
効果: 単体*に変更 Dmg+Clv*10								
ミアズマバスター	2		Mov		自身	自動		
効果: Dmg+Ep*10 EPをx消費								
バッドフォーチュン	1		対象Crit	20m	単体	自動		
効果: 対象がクリティカル時にクリティカルを打ち消す EP2消費								
「魂の贖」	1		P		自身	自動		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[消費されたEP×4]する。獲得EP×2点の最大HPの減少を受ける。								
ブレイカーブランド	1		P		自身			
効果: EP14、魔法攻撃+3D								
アンデッドライフ	1		戦闘不能		自身	自動	シナリオ1	
効果: EP-3 戦闘不能時、HP1で復活								
ミアズマブラスト	1		効果参照		自身	自動	シナリオ1	
効果: EPが0点のときに使用可能。攻撃と同時に使用する。そのダメージにCL*5 メインプロセスの後にあなたは死亡する								

・設定について  
 家族を失い、その後傭兵団も失ったことで、食いつたを稼ぐために冒険者になった。  
 妖魔や父親に対する復讐心がないとは言えないが、優先順位は非常に低い。(高い)  
 現実主義者で徹底したリスク回避(予定の)、一方で周りの意見(多数決)に従ってその中で役割を果たしていくタイプにするかも。

一つ目の記憶。12の誕生日。  
 グランフェルデンとファリアスの中間ほどに有る田舎の村の魔術師の家に産まれた私は、当然魔術師として生き、村を守るものだと思っていた。

逃げ惑う人、崩れ落ちる家屋、赤く染まる視界。  
 母は私に覆いかぶさって息絶えていた。自警団をしていた兄と父は…未だにわからないままだ。  
 (注: 生存でも死亡でもありだと思ってる)  
 遅れてきた傭兵たちに発見された私は、彼らについていくことにした。生きるために、戦うために。

二つ目の記憶。27の誕生日。  
 あれからどれだけ経っただろうか。傭兵団の皆とは家族同然だった。魔術を鍛え、魔族と戦い、共に笑う。こんな日々が続くと思っていた。そこに、私の父を名乗る男がやってきたらしい……。

そこは暗く、血の匂いで充満していた。どうやら鎖で縛られているらしい。  
 私の目には先刻来た父？が見える……うわ言のように何かを呟きながら私にナイフを突き立て――  
 氣を失った私が目覚めると歪な刻印が刻まれており、その代償として家族と魔術を失っていた。

